

北海道林業技術交流大会

平成10年度、北海道林業技術交流大会が1月21～22日に、札幌のかでる2・7で開催をされました。

発表部門は地域活動、造林、森林機能保全、林産、森林作業・林道、林業経営、森林保護、林致の8部門で、総勢98課題の発表がありました。

北見営林支局からは、3課題が参加をし知床森林センターからは、森林保護部門で緑化第1係長の稲川が「知床国有林におけるエゾシカの樹木食害について」発表をしてきました。森林保護部門では、8課題中5課題がエゾシカ被害問題に集中し、最後



の部門講評では、北大農学部助教授青井俊樹氏から「特にエゾシカ問題については、問題の背景を良く理解し実態と対策を考えてもらいたい」との助言がされていました。北海道林業技術交流大会は昨年より、国と道などの関係機関により合同で発表が行われることとなり、とても有意義のものでした。

今年の抱負



新年を迎えるたびにまた一つ年をとることが気になる年代になった。今年は健康管理に心がけた、清い心(?)で業務に取り組んでいきたいと考えています。

MS

36歳ともなれば立派な「おじさん」です、体力の維持に努めるため、トレーニングに励みます。

A.I

昨年の4月に知床森林センターに勤務になり、職場の雰囲気にも馴れ、2年目となる今年は、知床について知識を深め、皆さんにアピールしていければと思っています。

HT

2回覧 インストラクターの試験に合格

インストラクター試験に挑戦した緑化第1係長稲川著さん、試験に見事合格、おめでとうございます。今後の活躍を期待しています。

シマフクロウより

お知らせ

この広報誌はインターネットでも見られます。

イベント

2月27日(日)

発見の森歩くスキー

3月12日(日)

遠音別山麓歩くスキー



知床の森から

平成11年2月 第59号



北見営林支局 〒099-4113 北海道斜里郡斜里町本町1番地
知床森林センター Tel 01522-3-3009 FAX 01522-3-3160
ホームページ http://www.siretoko.knc.ne.jp/



エゾシカ

夏毛から冬毛への衣替えも
おわり、母ジカは新しい命を
やどします。

2月 知床の森から



流水に映えるウトロ港

昨年からの降雪で辺りは真っ白な雪景色となり、道路の両脇には除雪された雪が垣根のように続いている。オホーツク海には例年より数日早く、サハリン方面から流水が姿を表し海面を漂い、北海道ならでわの流氷と、冷たく青い海の冬景色を見せている。

年が明けて、センター事務所の窓からオオワシが上空に飛来しているのが見られた。

見慣れたカラスやトビに比べ、姿は一段と大きく顔つきも壮観であり、市街地で見られるのも稀である。

斜里からウトロに行く途中にあるオシンコシンの滝は、流れ落ちる滝の水が凍り付き、氷の間から清水が流れ落ちている。向かい側のオホーツク海には、流氷の上で獲物を待っているのか、ギョロリと辺りを見渡しなが

留まっているオオワシの姿が点々と見られる。秋の終わりから道路沿いにある山の斜面に見られたエゾシカは、自分の食料と決めた樹の根元を動かずに、その樹皮を食べている。食べ物のひとつである沿線の笹は、秋ごろから葉が食べられ一面茎だけになっていたことから、冬の間の食料不足も一段ではないだろうか。近くの公園にいくと、雪の上に木から木へと一直線に何者かの足跡が折れ線グラフのようについていて、調べてみるとエゾリスらしい。夜間に遊び歩いたのだろうか、寒い冬でも元気に活動しているようだ。

これから冬を活かした雪祭などのイベントが、各地で開催され流水観光と共に厳寒の冬を楽しむ人々が多くなり、知床もしだいに賑やかになるだろう。



厳寒の羅臼岳

エゾシカによる植生食圧調査

昨年末段階でササの食圧が進む

増え続ける樹木食害に着目し、一昨年から知床国有林内（ウトロ地区）に調査区を設け、樹木食害の追跡調査を行っていることについては、既に数回報告済みである。

昨年9月に同調査区隣接で、新たに樹木食害と併せてエゾシカによる「植生食圧調査（囲い込み）」についても、調査を行っているので報告したい。

調査目的は、樹木食害と同じくエゾシカの食性ササなどの受ける食圧及び回復の期間を観察する。囲い込みをした設置箇所は、知床半島の北面に面した斜面にあり、標高約100m、針広混交林の天然林で、植生はクマイザサを主とするエゾシカ越冬地である。

設置物は写真①にみる工作物（以下、コドラートと呼ぶ）を施した。



① ササの密生地にコドラートを設置（9月）



② コドラート以外は、ササの葉が一枚残らず食べられた（12月）

コドラートの大きさは、8m 四方で、金網の太さ18#、升目2.6cm、高さ3mを使用し、コドラート内と囲い込みをしない対象区とを設け食圧変化を観察（10年間程度）することとした。クマイザサの平均丈は、コドラート内78cm、対象区64cmである。

昨年9月の設置段階では、クマイザサはそれ程食害を受けていなかったが、12月中旬では

コドラートの箇所以外は全て食べられると言う顕著な実態が現れた。（写真①と②を参照）

原因は、11月下旬に降った大雪で下層植生やドングリなどが埋没したことが考えられる。いずれにしてもこの時期に、ササがこれ程までに食べられるのは珍しく、ササの食圧が進めば、当然ながら樹木食害への影響も早い時期に受ける恐れがあり懸念されるところである。

第24回

森

とのふれあい

第24回「森とのふれあい」『親子木工体験』を、1月9日に知床森林センターで36名（小学生以下24名）が参加して実施しました。

昨日からの吹雪の心配をよそに当日は晴天に恵まれ、予定通りの開催となりました。

工作は、あらかじめ用意した自然の素材（つる・小枝・小石・年輪プレート等）を使って、小動物・壁掛け等を作ります。

親子で木工体験

なごやかな雰囲気の中で



工作に取り掛かる親子

参加者は、センター職員から材料の取り扱い方や作り方等の説明を受けた後、さっそく材料を選び工作作りに入りました。

参加者の中には馴れた手つきですぐ工作に取り掛かる子供や、何を作るか考えている親子が見受けられましたが、難しい作品に挑戦し出来上がりに満足した親子、また、子供より親の方が夢中になる人など様々でした。

終わりに、出来上がった思い思いの作品を皆んなに紹介し関心を受けていました

また、余った材料を持ち帰り家庭で工作してみたいとの声もありました。

短い時間の中でしたが、楽しそうな声や笑顔でセミナー室は終始なごやかな雰囲気にも包まれ好評でした。



自分の作品を紹介

インターネットの活用

昭和63年3月に開設された知床森林センターも、平成11年3月で12年目を迎えることとなる。これまで、森林・林業について理解と普及を図るため、各種の地域行事への参加、イベントの企画、各種調査、広報活動などを行ってきた。

平成8年には、知床森林センターが一般会計へ移替となり、緑化思想の啓発に関することや、森林の公益的機能の発揮に関する技術情報の提供・指導に関すること等一般林政に係る業務として行っていくこととなった。

当センターとしては、森林づくりや緑化活動の一環として新たに体験林業を実施するとともに、また、情報の提供については、従来から発行してきた広報紙「知床の森から」の内容等の見直しや、より多くの人に情報を伝



えるためホームページの開設も行った。ホームページを開設してから、はや4ヶ月がたった。アクセス件数の多少は別としても、毎日確実に誰かが閲覧している。

緑化思想の啓発、森林の公益的機能の発揮に関する技術情報の提供・指導を行っているセンターとしては、目で見えて・費用が安く・効果を早く伝えることの出来るこれらインターネットは、格好である。

これらの、実施効果については、今後の広報紙等で報告してゆくこととするが、知床森林センターとしては、今後も積極的に各種の情報の提供を行うと共に地域のニーズの把握を行ってゆくこととしている。